

海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和 5 年 8 月 6 日～8 月 14 日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：6 年

学籍番号：180973455

氏 名：久田侑歩

1. 参加目的

海外で薬剤師がどのように活躍しているか話や文面上ではなく自身で体験してみたいと思った。6 年になり、薬局実習と病院実習を経験したことで日本の薬学教育と薬剤師の役割を理解した今、日本とアメリカの薬剤師の役割と薬学教育の違いを直接学びたいと思った。日本とアメリカの薬剤師の役割と薬学教育の違いを確認し、広い視野を持っていきたいと思い参加した。

2. 研修内容

【研修テーマ】サンフォード大学薬学部における薬学教育現場、医療施設見学

【研修日程】

月 日	研修内容
8 月 6 日	バーミンハム到着
8 月 7 日	オリエンテーション(大学紹介) 講義(薬学教育、レジデント教育、健康保険制度)
8 月 8 日	薬局見学
8 月 9 日	講義(学生生活) 学生交流
8 月 10 日	リハビリテーション病院見学 シミュレーション学習
8 月 11 日	講義(外来の薬剤師業務) 病院外来
8 月 12 日	U. S. Space and rocket center 見学

【研修内容の詳細】

薬局見学は、2 店舗の個人薬局と点滴などを調整している薬局の 3 店舗見学させていただいた。

2 店舗の薬局は日本とあまり変わらなかったが、機械化が進んでいた。3 店舗目の薬局は、日本では見られない自宅での点滴の調製を行っていた。

また、サンフォード大学 3 年生の 2 名の学生による学生生活などを中心としたプレゼンテーションを受講した。学生 2 名の大学生活ではほぼ勉学中心で、午前 8 時から午後 1 時まで授業に出席し、その後、予習・復習、課題を毎日平均 6 時間、自主学習していることに驚いた。

日本ではあまり馴染みのないリハビリテーション病院 (Encompass Health) を訪問した。Stroke 後の患者が多いが、身体機能回復に向けた実際の生活場面 (車に乗り込む動作の修得など) での訓練など

が行われていた。サンフォード大学薬学生3名が研修しており、入院時の患者薬剤情報などの把握はもちろんであるが、担当患者の機能回復訓練に障害を及ぼすような日中の眠気や動作の障害となる薬剤の調整や切り替えなどを積極的に提案しているのが印象的であった。

サンフォード大学キャンパス内のシミュレーション教育の施設 (Experiential Learning and Simulation Center) を見学した。実際の病院のそのものフロアーが1フロアー (診察室、集中治療室、廊下の幅と色まで実際の病院の構造と同じ) 造られており、診察室 (10室) や患者ベッド (計20; 実際にシミュレーターの患者ロボットが20体設置) が備え付けられており、看護学生や医師アシスタント (日本では存在しない) などの学生も参加し、各職種の学生の実践的な多職種連携教育としても活用している。また、実際に高精度のロボットを備えたICU室、手術室、小児、妊婦の病室が再現されており、実際にICUのシミュレーター室で救急処置の経験をさせていただいた。

3. 感想

日本とアメリカにおける薬学教育と薬剤師の役割の違いなど多くのことを今回のサンフォード大学での臨床薬学研修を通して学ぶことが出来ました。

特に、テクニシャンの存在により、薬剤師の職域の広さを感じました。患者中心の医療を提供している点においては、日本と変わらなかったが、テクニシャンがピッキングやTPNなどの調製を行うため、薬剤師は投与量の調節や患者さんとの対話に重点を置くことが出来ていました。さらに、薬剤師をはじめ、薬学生でもワクチンの接種を行うことが出来るため、職域の広さを感じました。

また、シミュレーション学習の充実さに驚きました。数多くのシミュレーションロボットがあり、ICUや手術室、小児の患者の病室が再現されていました。実際に体験させていただき、患者から声が出たり、モニターにバイタルサインが表示されることにより、実際の現場の状況を感じながら行うことが出来ました。この経験は、実務実習をはじめ、薬剤師として働いても活かされると感じました。

アメリカでの経験から、日本の薬剤師の長所短所を確認することが出来ました。今後薬剤師として専門性を高め、広い視野をもって取り組んでいきたいと思います。

最後に、今回の海外研修に参加する機会を与えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。